

ぐんま食の安全情報

Vol.114

ぐんま食の安全情報は、食の安全に関する情報を食の安全情報通信員のみなさんを通じてお届けする情報紙です。

2015年4月発行
編集発行
群馬県食品安全局食品安全課

情報No. 114 食品の安全等に関する意識調査の結果について (後編)

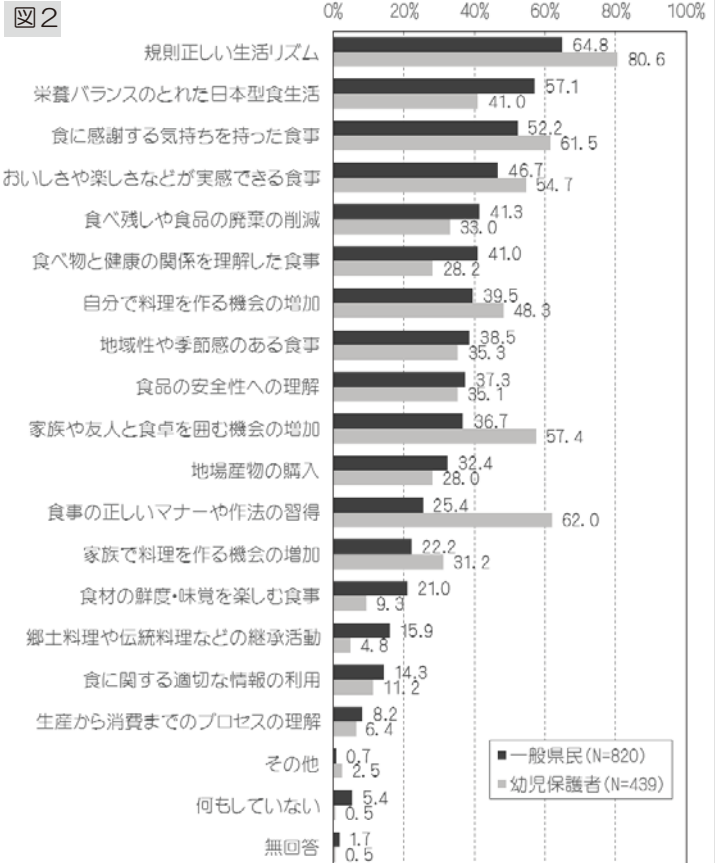
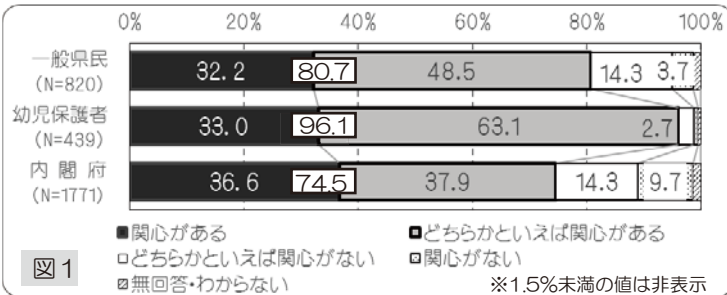
今回は、平成26年8～9月に実施した「食品の安全等に関する県民意識調査」の中から、一般県民の方と幼児保護者を対象に行った、「食育」に関する調査結果についてお伝えします。

食育の関心度と実践していること

「関心がある」、「どちらかといえば関心がある」は、一般県民80.7%、幼児保護者96.1%で、幼児保護者のほとんどが食育に関心を持っています。

また、内閣府の全国調査と比較すると、県民の方々の関心度がより高いことがうかがえます。(図1)

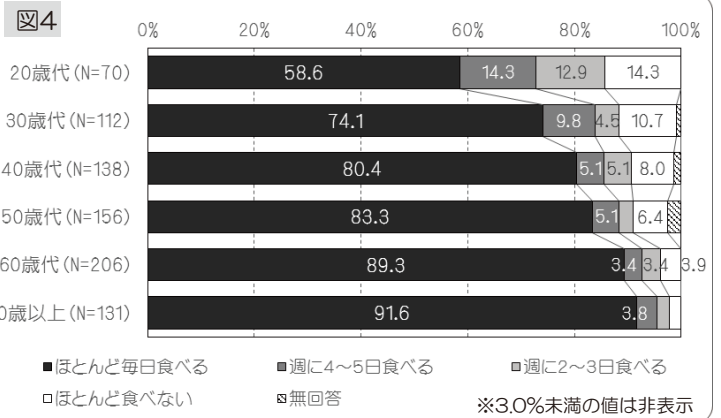
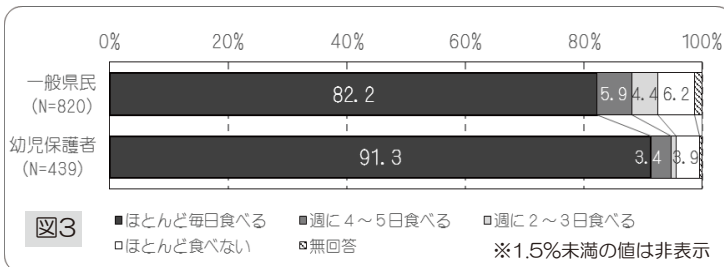
一方、食育に対する関心は高いものの、実践している項目をみると、バラツキがあることがわかりました。(図2)



朝食を食べる頻度と内容

一般県民の8割以上、幼児保護者の9割以上が朝食をほとんど毎日食べています。(図3)

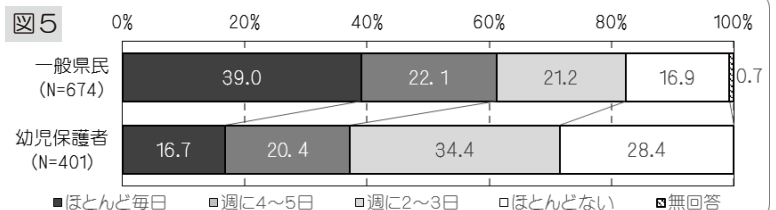
一方、20歳代では、約4割の人が朝食の欠食がある状況となっています。(図4)



また、一般県民に比べると、幼児保護者の朝食の献立は、主食・主菜・副菜をそろえて食べる頻度が低くなっています。(図5)



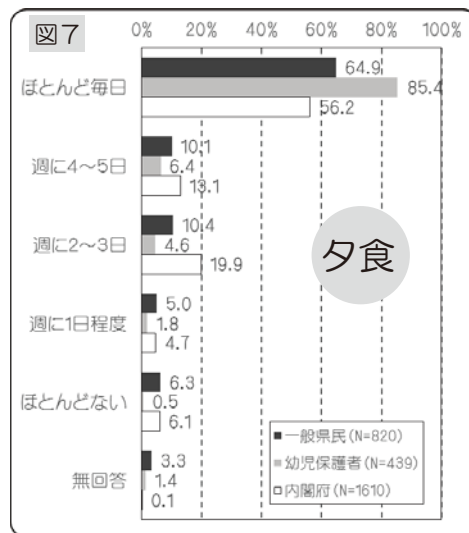
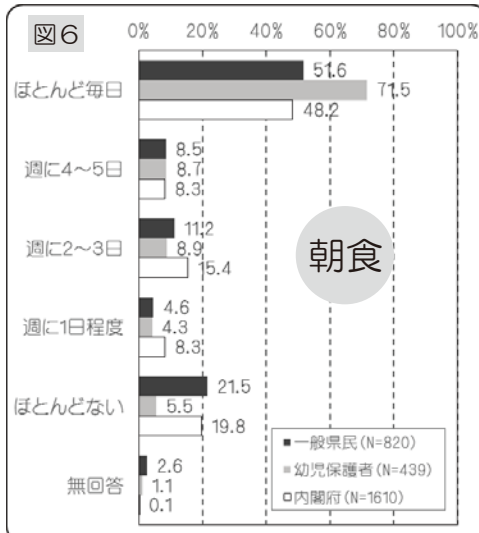
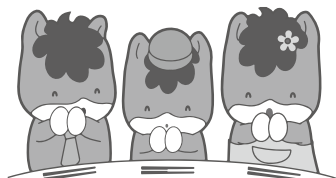
※前問で「朝食をほとんど毎日食べる」と回答した人のみ



共食について

一般県民に比べると、幼児保護者は朝食も夕食も家族や友人と一緒に食べる頻度が高くなっています。

また、夕食に比べて、朝食は家族がそろいにくい状況がうかがえます。(図6・7)



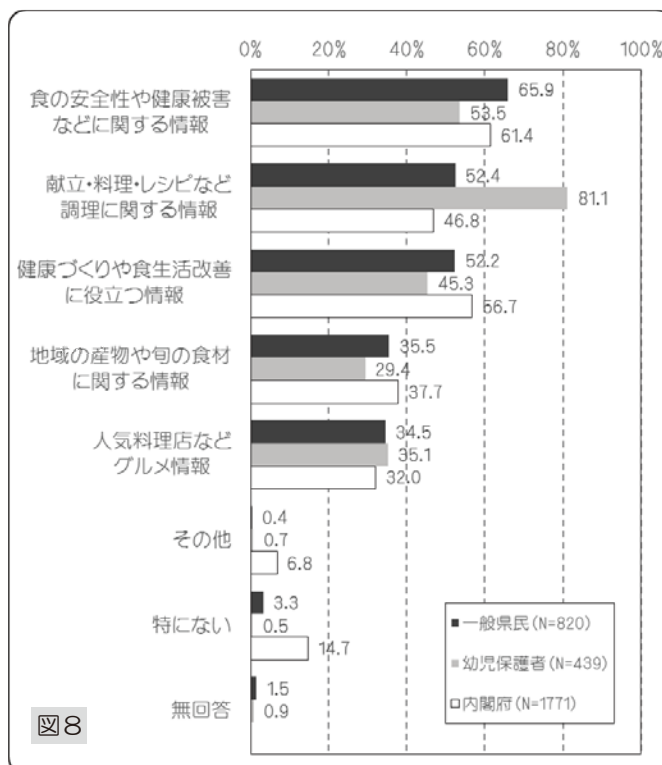
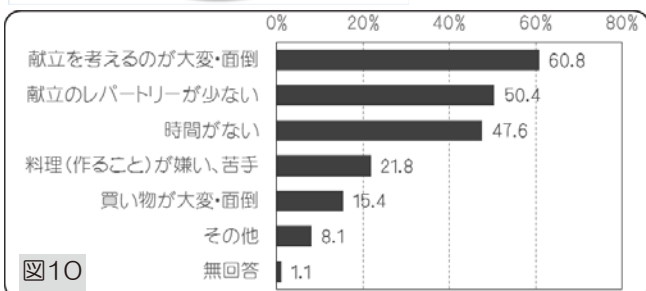
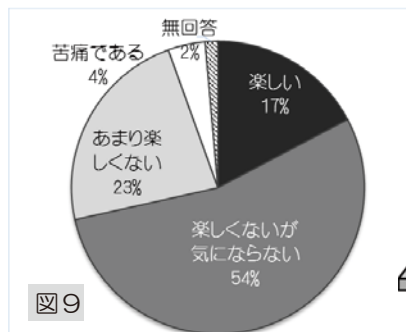
食について関心がある情報

最も関心のある情報は、一般県民では「食の安全性や健康被害などに関する情報」の関心が高く、幼児保護者では「献立・料理・レシピなど調理に関する情報」特に高くなっています。(図8)

毎日の食事作りについて

幼児保護者に毎日の食事作りをどう感じているか聞いたところ、「楽しい」は2割未満で、「あまり楽しくない」と「苦痛である」を合わせると3割近くになっています。(図9)

楽しくない理由は、「献立を考えるのが大変・面倒」、「献立のレパートリーが少ない」、「時間がない」などでした。(図10)



『輸入食品 安全・安心Q&A』を作成しました

輸入食品に関する疑問について、Q&A形式でわかりやすく解説したリーフレットを作成しました。例えば、「輸入食品の安全性はどのようにチェックされているの?」では、輸入食品が食卓に届くまでの検査の流れを図式で説明しています。

ご希望の方は、食品安全課までお問い合わせください。県のホームページからもダウンロードできます。

輸入食品 Q&A 検索

～食品表示や食の安全性に関する疑問や相談にお答えします～

食の安心ほっとダイヤル 027-226-2424

お知らせ

不定期発行について、御理解と御協力ありがとうございます。次回は、5月発行予定です。



御意見・御感想
お問い合わせは
こちらへ

〒371-8570 前橋市大手町1-1-1 県庁食品安全課
TEL: 027-226-2423 FAX: 027-221-3292
電子メール: shokuanze@pref.gunma.lg.jp